

胆のう摘出で新手術法 東海病院と名大医学部

小さな穴を開けるだけで、腹を切らずに胆のうを摘出する新手法の手術に、名古屋大学医学部第1外科の二村雄次・助教授と、東海病院（名古屋市千種区千代田橋1丁目、早川直和院長）外科のスタッフが成功した。24日と25日に胆石の患者2人を続けて手術し、いずれも今週中には退院の見込みという。

胆のうの摘出手術では、普通は胸から腹にかけ20センチほど切り開いて摘出をする必要がある。今回の方法は、フランスで2年前に開発された新手法。腹に直径5ミリから1センチほどの穴を4カ所開け、そこからハサミや電気メス、腹くう鏡などを中に入れて、テレビ画面を見ながら体内で手術をし、開けた穴から胆のうを外へ取り出す。

穴が小さいため傷口は1カ月ほどで消え、患者に与える影響が少なく、普通は手術後3週間ほどかかる入院も、この方法では1週間程度ですむ、という。